

森林インストラクター資格試験後の基礎研修

森林作業

2018年10月13日(土) 曇り 聖パウロ学園高等学校の学校林

「FIT友の会」で、森林インストラクター資格試験終了後の基礎研修として「森林作業」を聖パウロ学園高等学校とパウロの森くらすの協力で実施しました。この研修は、これから森林インストラクターとして活躍する会員の皆さんの基礎技術習得が目的です。

座学では、森林作業について「植える」「育てる」「伐る」「運ぶ・売る使う」の20年から100年のサイクルでの作業項目とその内容についての概要説明と、実習で行う間伐作業について、その作業手順と安全面での注意点を説明して頂きました。

間伐の実習では、選木、伐倒方向の決定、周囲の整理、メインロープ掛け、作業開始の合図、切断部のマーキング、受け口切り、追い口切り、重心移動、伐倒、終了時の合図、枝払いまで一連の作業を講師の指導を受けながら行いました。



広場での座学：森林作業の概要について

斜面での作業で、鋸で水平に切ること、また切らずに残す「つる」の幅を均一にすることが難しかったようですが、ほぼ狙った方向に伐倒できました。伐倒後には、全員で切り株を見て、受け口の大きさ(1/4~1/3)、水平に切っているか、残したツルの幅(1/10)や幅が均一かどうかを検証しました。最後に使った道具の手入れを行い、森林作業の基礎研修を修了しました。

参加した会員の皆さんにとって、初めてまたは2回目の伐倒作業だったので、作業手順に従って基本通りに鋸を挽く作業はなかなか大変な様でした。森林作業の概要と間伐作業の基本手順を理解し、伐倒作業の経験を積み、森林インストラクターとして、森づくりの作業を指導できるようになることを期待します。

「FIT友の会」での資格試験後の基礎研修は、10月「森林作業・間伐」、11月「自然観察・植物を覚える解説する」、12月「野外活動・火熾し飯盒炊爨とクラフト」の3回計画しています。



間伐の実習：伐倒後の切り株を検証する

参加者：氏家さん、小野さん、福山さん

講師：森田寛臣さん

(報告：FIT友の会運営部会 槇田幹夫)



現場での座学：間伐作業の手順について



間伐の実習1：切る位置に印をつける



間伐の実習2：倒す方向に合わせて受け口を切る



間伐の実習3：倒す方向の反対側から追い口を切る



間伐の実習4：伐倒後の枝払い



伐倒した切り株：水平に切っており、ツル幅も均一